

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宇城市松橋町松橋1621-1		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成29年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は同敷地内に隣接するグループホーム・ドリームまつばせの姉妹施設として開設し2年が経過しました。自然豊かで季節を感じられる明るい環境の中入所者様は笑顔で穏やかに生活されており、職員も入所者様及びご家族様の安心・満足を得るべく種々サービスの提供に連携して取り組んでいます。又、職員は自己のスキルアップも目指し研修や勉強会に参加し日々ケアの質の向上に努めています。ドリームまつばせとの一体的な運営の基、経験に裏付けされた良き面を取り入れ年3回の日帰り旅行、お花見、夏祭り、クリスマス会等楽しい行事を提供。更に独自の特徴を活かすべく個別ケアの提供も積極的に働いています。又、地域に開かれた施設とすべく運営推進会議の定期的な開催等にてネットワーク構築にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* ホームは、隣接する「グループホーム ドリームまつばせ」を母体として開設され、3年目を迎えたところである。管理者は、職員の理念の理解と実践を促進し、その専門性を高める為に計画的に多様な研修を実施している。その結果、職員は一丸となって更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。
* ホーム長・管理者・職員間には信頼関係が構築されている。働きやすい職場環境によって職員のプロとしての意識が高まり、資格の取得へと繋がっている。 * 天気の良い日は散歩や花見、道の駅への買い物等の日常的な外出の他、年3回日帰り旅行を楽しむ企画があり、多様な外出支援が行われている。 * 表情や話し方が明るく穏やかな職員にケアされながら、利用者は落ち着いた環境で生活を送っていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し常に見える化を図っている。又、定期的にミーティング等で掲げ、職員への理解、共有を徹底し、実践へつなげている。	理念を浸透させる為に、月1回のミーティングにおいて、定期的に一人ひとりの職員が理念の解釈とその実践について発表する機会が設けられている。理念を共有しながら利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援が行われている事が、サービスの内容から感じられた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校への雑巾寄与や交流会実施、散歩時の挨拶等地域との交流の場を設けている。	利用者が作った雑巾を近隣の小学校にプレゼントし、その小学校の生徒がホームを訪問する等して交流を図っている。蕎麦打ち体験の実施やクリスマス行事に合わせた手品の披露等が地域住民によって行われ、利用者も共に楽しんでいる。開設から約2年、まだ「地域の方に気軽に立ち寄ってもらえる施設」というまでには至っていないと、管理者は感じている。	地域に根着いた誰でも立ち寄れるホームを目指しており、地域交流室の更なる活用が期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当事業所の取り組み、認知症の方への支援方法などの活動報告にて地域の方へ発信、展開している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の近況報告、活動実績報告はもちろん近隣地区や市との情報、意見交換を行い施設内でのサービスへ展開するようにしている。	運営推進会議の委員は、区長・民生委員・老人会長・地域包括・市高齢介護課・家族代表からなり、「ドリームまつばせ」と合同で実施。ホームの活動や利用者の状況報告の他、委員から地域の情報提供があり、委員からの質問に対しては随時説明を行っている。「利用者様に対する接し方」「認知症高齢者介護家族への理解」等テーマを定めた担当者による説明があり、ホームの取り組みを具体的に理解する機会となっている。	市職員から、ホームを災害時の避難場所にする提案があっており、検討中である。取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各書類の提出、行政から情報提供求められた時の速やかな対応、運営推進会議や研修時での意見交換等にて協力的に取り組んでいる。	管理者は提出書類を市役所に直接持参する等、積極的な協力関係作りに努めている。市職員は質問事項等に丁寧に答えており、日頃から相互に意見交換を行う等、協力体制が整っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する規範に基づき、全職員がその内容理解したうえで日中の玄関解錠、ベッド柵拘束の禁止等実践している。	ホームの年間研修計画に身体拘束の禁止に関する研修を組み込んで実施している。職員は言葉による拘束も含め、禁止対象となる行為を理解している。利用者に帰宅願望がある際は、自宅を見に職員と出かける等の対応をしている。利用者の不穏状態の情報を把握した際は、共有の上で見守りを重視する等、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、勉強会(ミーティング時研修内容の発表)にて全職員が理解し連携することで虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修にて制度への理解を深め、必要な場面で助言、活用が出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は「重要事項説明書」に基づき資料読み合わせ実施、説明内容について疑問点など質問も受け付け十分納得して頂いたうえでの承諾を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へご意見箱設置、常に利用者様やご家族の意見を反映出来る体制を整えている。	毎月、広報誌を家族に送付する他、面会時に利用者の状況をこまめに伝えて信頼関係の構築に努めている。夏祭りやクリスマス会等の行事の際は家族の意見要望を聞き取る機会としている。内容によっては個室で対応する等、話し易いよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング開催時には職員に意見や要望を掲げてもらい話し合える場を設け、運営改善に努めている。	月に1度、全職員が参加するミーティングが行われており、ゆとりを持って利用者と接するために夜勤と早出の業務内容を見直したり、利用者全員が楽しく参加出来る行事の工夫など、活発な意見交換が行われている。年間計画に基づいて各種研修を着実に実施し、サービスの質の向上に繋げており、互いを認め尊重し合いチームの和を大切にする中で、利用者を支援していることが、管理者・職員からの聞き取り内容から感じ取れた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況把握、評価に努め、資格取得手当を含めモチベーション上げ働きやすい環境を提供出来るよう推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は管理者や職員のスキルや学習意欲の把握に努め、種々研修機会の提供、実践における能力向上を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者や職員の同業者との交流を目的に地区の勉強会やミニバレー大会等への参加を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は以前ご利用されていた病院や他のサービス事業所より情報提供して頂き、又ご本人やご家族との面談にて不安や希望等傾聴することで気持ちを汲み取り安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はご家族様の要望等傾聴し、当施設でのサービス内容、今後ご家族様へ協力して頂く内容等納得し安心して頂ける説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様(もしくはご家族様)へ面接しアセスメント情報収集、分析したうえで他のサービスも含めた初期ケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の性格や生活パターン、得意分野を見極め、職員と利用者様が共同作業することで信頼関係も徐々に構築されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時は絆を深められる環境を提供し、又日頃の様子や体調等を説明、双方から利用者様を支えていけるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望される方には今まで行っておられた地域交流の場への参加を支援し、馴染みの方との関係が続くよう配慮している。	職員と一緒に馴染みのスーパーへ買い物に行き店員と会話する、職員の送迎で地域の茶話会に参加する、家族の協力で帰省した折に墓参りへ行く、友人知人に年賀状を出し近況を知らせる等、馴染みの人や場と関係を継続するための支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が楽しく安心して暮らせるよう、孤立している方を見つけた場合は他者や職員と一緒に出来るレクリエーション等を提供し円滑な関係が継続できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点でサービスが終了した利用者様は居られないが、ご家族も含め良好な関係性が継続できるよう取り組んでいきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での意向を確認するような声掛けに努めている。発語が出にくい方、あまり自己主張されない方にもしっかりご本人の意思を確認するよう努めている。	入所時の利用者・家族からの情報や日常会話から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。気付きはミーティングや申し送りノートで共有し、花の好きな人は花を生けて飾る、家事の好きな利用者には家事の手伝いをしてもらおう等、思いに沿う支援を行い、穏やかな表情を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報、以前利用されていたサービス、又は病院の看護サマリー等を職員全員把握している。又、毎日の中で知り得た情報も記録し職員全員で共有・活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活ペースを大事にして頂くことを大切にしている。又、一人一人の様子(表情・行動)をしっかり観察し、心身状態、持てる力の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング時だけでなく必要と思われる時は職員、ホーム長、ご家族を交えて話し合い、ご本人がより良く暮らせるよう現状に即したケアプランを作成している。	利用者の担当職員が他の職員の意見も参考にして定期的にモニタリングを実施。サービス担当者会議に参加できない家族の意向を面会の際に確認し、利用者の介護計画を6か月に1度見直している。心身の状態に変化が見られた際は、医師の意見を参考にして現状に即した介護計画を作成。利用者一人ひとりが自分のペースで安心安全な生活を送れるような介護計画の作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌には日常生活での利用者様の様子、ご本人が発せられた言葉、行動を記録している。又、ミーティングや申し送り帳にて意見交換・情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診、買い物の支援、急な外出要望等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校との交流会を行っている。月に一度地域の交流会やイベントに参加されている利用者様も居る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医による往診を受けて頂き健康状態をチェックしている。急病時にも往診して頂ける体制も構築されている。	利用者・家族の了解のもと、全利用者が協力医をかかりつけ医としている。月1回の往診の他、緊急時の対応も可能であり、適切な医療支援体制となっている。精神科等の専門医受診に際しては、ホーム職員又は家族が同行の上受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受けて頂き、日常の健康状態をチェックしている。異変があった場合にはすぐ相談し対応して頂けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活の留意点を情報提供。入院中は管理者などが度々面会に行き関わりを持っている。退院時は入院中の情報提供して頂き早期の復帰に役立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望されるご家族様には希望に添えるよう十分話し合い、訪問看護や主治医と連携を図りながら又、職員内でも連携し最後まで看取れるようにしていく。(同意書あり)	契約時に、利用者・家族に看取りの指針について説明して意向を確認の上、同意を得ている。開設して約2年である為、当ホームでは看取りの事例はないが、半数の職員は系列ホーム等に勤務していた際に看取りを経験している。看取りが求められた場合に備えて研修を行っており、全職員が看取りに取り組む意義と重要性を理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応勉強会、定期的な訓練を実施している。緊急時の連絡体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、消防署立会いのもと避難訓練を行い、災害時にスムーズに避難出来るよう指導を受けている。又、設備の定期点検、防災マニュアル整備も実施している。	消防署立ち会いのもと、利用者が参加して隣接するグループホームと合同の夜間訓練が行われている他、ホーム独自の夜間を想定した総合訓練も実施。地域消防団員はホーム開設時にホーム内部の構造等を確認済みである。団員の電話番号も職員間で共有しており、災害時の協力を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や気性に配慮し、言葉かけや対応を行っている。	さりげない支援や励ます声かけ等、一人ひとりに合わせて工夫し、誇りやプライドを傷つけないよう対応している。コミュニケーション教育に関する研修を実施する中で、「利用者様には敬意を持って接する」「穏やかに接する」等6項目を中心に利用者の人格を尊重するための指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出されるよう意思確認、戸惑われる場合は選択肢を絞り極力自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて居室やDルームで穏やかに自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴等の更衣支援時は本人の好み、希望に合わせて応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者様と職員と一緒に食事の準備、盛り付け、かたづけを行い、食事中も同席し会話などで楽しく食事ができるように支援している。	冷蔵庫にあるものや頂き物、毎日の買い出しで購入した物を用いて、職員が交代で季節感・彩り・盛り付けに配慮した家庭的な料理を提供している。利用者の「麺類が食べたい」と言う声を受けてメニューをちゃんぽんにする等、柔軟に希望を取り入れている。行事食・誕生日のケーキ・外食・出前の他、日帰り旅行先でのバイキング食等、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や摂取量に合わせて食事形態や量を変えて食べやすいよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助、確認を行い、口腔内の清潔が保てるよう取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方はなるべく布パンツを履いて頂き、必要な場合は夜間帯のみリハビリパンツを着用にて安心して休んで頂けるよう支援している。困難な方は排泄パターンを考慮し誘導している。	昼間は全利用者がトイレで排泄。布パンツの使用では失敗が不安な人は、リハビリパンツやパットを使用している。季節や時間帯等、場面毎に排泄用品を検討して快適さを向上させている。パターンを把握した上で、声かけ誘導や見守り及び一部介助を実施し、利用者の排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく野菜や水分を多く摂って頂けるよう心掛けている。散歩や緩下剤等にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好きなタイミングに合わせ、快適に入浴出来るよう入浴中も希望に応じた支援を行っている。	入浴日は一日置きである。一番風呂・遅い風呂・夜間入浴等、利用者は好きな時間に入浴している。浴室には深さが浅い風呂と檜風呂の2種類があり、利用者は身体状況や希望に合わせて選ぶ事が出来る。歌を歌う、職員との会話を楽しむ等、利用者にとって入浴は寛ぎの時間である。以前は入浴を拒否していた利用者も、本人の入浴のタイミングを把握した現在は滞りなく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や明るさ、温度等を調整し、いつでも安心して休息出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの日頃の体調管理に努め、服薬されるまで声掛け、見守り行っている。特変があった場合は申し送り等にて職員連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物への同行や花生け等利用者様が楽しみにしておられる事、洗濯物たたみや食器拭き等得意とされている事が役割として提供出来るよう、ライフスタイルを重視している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出、お花見や紅葉見物等支援している。買い物など本人様の希望があれば職員同行にて支援している。地域交流の場への参加も支援している。	近隣へ散歩、お天気が良ければ菜の花見物、道の駅へ買い物等、日常的に外出している。職員と一緒にスーパーに買い物に行く他、家族の協力で外出する等、個別の対応も見られた。春・夏・秋には利用者の意見も取り入れて日帰り旅行を実施。阿蘇でいちご狩り、高岡演舞場で観劇、人吉の球磨川下り等、目的地も内容も多様で思い出に残る楽しい外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には少額づつ管理して頂き、希望があれば買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば職員がご家族様へ電話を取り次ぎ支援している。ハガキや年賀状等が届いた入所者様の返信を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて室温調整したり、玄関・Dルーム・トイレ等に入所者様が生けて下さった花を飾り居心地の良い環境作りを行っている。	利用者によって活けられた季節の花が随所に飾られ、皆の心を和ませている。ホーム内・玄関の内外・ウッドデッキ等にソファ・木製のベンチ・椅子などが置かれており、利用者は気の合う人同士で会話をする、一人で日光浴をする等、自由に過ごすことが出来る。玄関に掲示された写真から利用者の充実した日常が垣間見えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にDルームや各居室で過ごせるよう支援している。気分によっては離れのホール、ソファで一人になられることが出来る居場所も提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や持ち物等、以前から使っておられ慣れ親しんだ物を持ちこまれており、使い慣れた物を使って頂くことで少しでも自宅で過ごしている気分になられるよう支援している。	居室の花柄のロールカーテンはインテリアにもなり、明るい印象を生みだしている。全居室に電動ベッドを設置している。利用者は各々使い慣れた整理タンス等の調度品を持ち込んでいる。朝ドラが好きな人は普段通り楽しめるようテレビを置き、花好きな利用者には家族が鉢植えを置いていく等、その人らしい部屋作りとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレには認識出来るよう表示を掲げている。又浴室、トイレ、廊下には手すりを設け動線上には障害物等置かないよう安全にも配慮している。		